

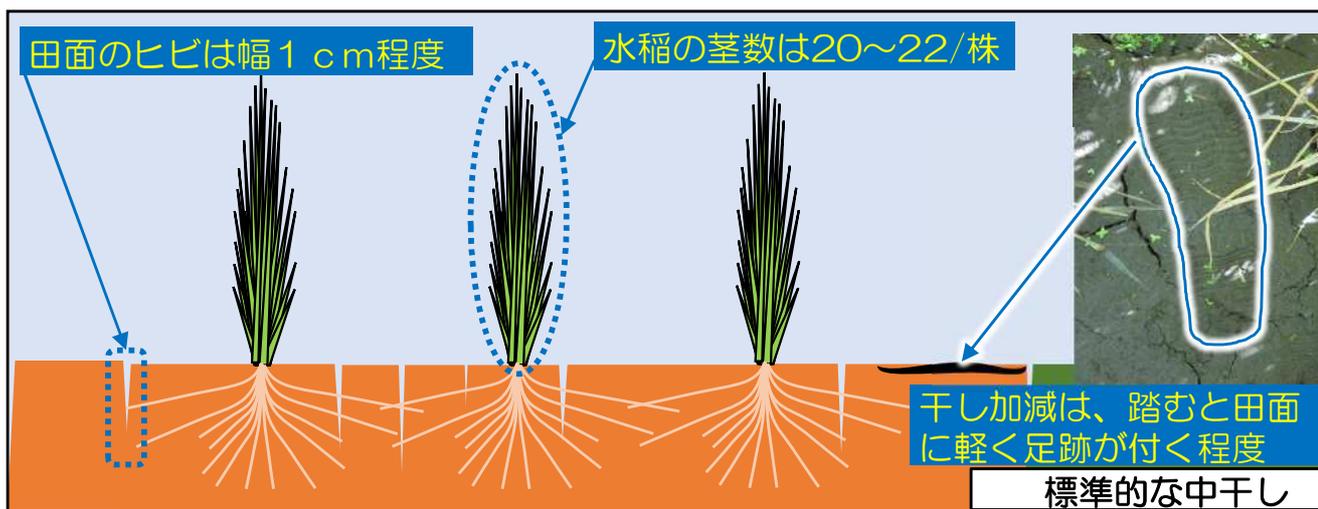
作物栽培管理情報

令和7年7月号
大分県中部振興局 生産流通部 集落営農・水田畑地化班

水稲の栽培管理

◎中干し

中干しの目的として①外気（酸素）による根の活性化、②水田土壌から稲にとって有害なガスを追い出し、③無効分げつ、下位節間の伸びを抑え倒状を防止することが挙げられます。中干しの期間は水稲の茎数が20～22本/株となった日から5～7日間です。



☆ポイント

- ・生育の遅い圃場は根を傷めないよう、弱めに干しましょう。
- ・中干しの期間が終わった後は、間断灌水に戻しましょう。

◎間断灌水

間断灌水とは田に水をため、自然に落水してから1～2日おいて入水することを繰り返す作業です。活着してから中干しまでは水の管理は間断灌水が基本で、常時湛水すると有害な物質を含んだガス（有機酸）が湧き根傷みを起こします。地中深く張る根へ水と酸素を十分に供給することで、根傷みを防ぎ元気な稲に育てましょう。

◎水稲生育期の雑草対策

雑草発生圃場では、薬剤の使用時期（収穫前日数等）や雑草の葉齢を考慮して早めに処理しましょう。薬剤ごとに適用葉齢、水管理、使用時期が異なるので、ラベル等をよく読んで使用しましょう。

農業情報メール配信の登録募集！

～米・麦・大豆の栽培管理情報をいち早くキャッチしよう！～

★登録方法★

配信受付（スマート申請システム）

<https://ttzk.graffer.jp/pref-oita/smart-apply/surveys-alias/nougyouzyouhou>

上記のアドレスまたはQRコードからアクセスし、メールアドレス等の必要事項を入力してください。後日、農業情報をメール配信します。



お問い合わせ先：大分県中部振興局 集落営農・水田畑地化班 電話097-506-5791
ホームページ：http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html

裏面へ

大豆の栽培管理



◎ 種子消毒

種子消毒は種子伝染性の病害予防等に加えて、生育初期の種子腐敗を抑えて発芽率の確保や発芽を揃える効果があるので、必ず行いましょう。

農薬名	使用量 (種子1kgあたり)	適用病害虫
クルーザーMAXX	8 mL塗抹処理	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、茎疫病、リゾクトニア根腐病、苗立枯病、紫斑病、黒根腐病、白絹病、ハト

◎ 播種適期と播種量 大豆の播種適期は7月1日～7月15日です！

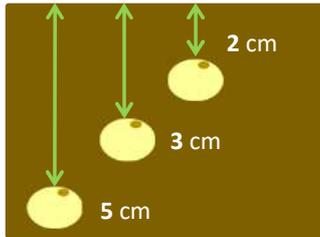
早播きは過繁茂や倒伏しやすくなります。また7月中旬以降の播種は収量が大きく下がります。播種量は播種時期によって加減してください。

遅くとも**7月20日**までには播種を終わらせましょう。

時期	条間×株間	播種量
6月下旬	70 cm×27 cm	4 kg/10a
7月上・中旬 ※適期	70 cm×21 cm	6 kg/10a
7月下旬	70 cm×15 cm	8 kg/10a

◎ 播種の深度

播種後の天候を予測して、播種深度を変えましょう。



播種直後に
大雨が降りそうなら **2 cm**

基本は **3 cm**

乾燥が続きそうなら **4～5 cm**
鎮圧をしっかり行います

◎ 雑草防除（初期除草剤）

大豆は初期生育時の雑草防除が重要です。除草剤の使用時期を確認し、必ず散布を行いましょう。

使用時期	薬剤名	10aあたり使用量	
		薬量	希釈水量
耕起前または出芽前まで (雑草生育期)	ラウンドアップ マックスロード ※耕起前に雑草が多い場合に使用	200～500 mL	通常散布 50～100 L 少量散布 5～50 L
播種後出芽前 (雑草発生前)	ラクサー乳剤	400～800 mL (ツクサにも800 mL/10aの薬量で効果あり)	100 L

◎ 中耕培土

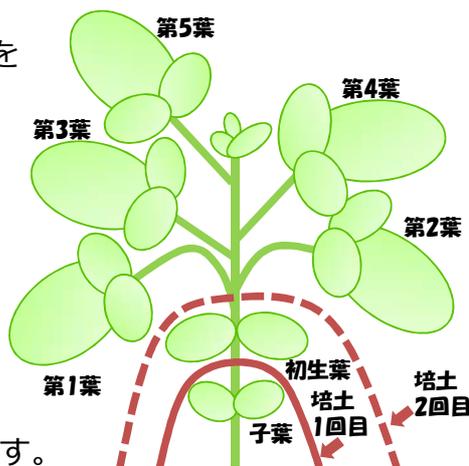
倒伏防止、雑草防除をかねて行いましょう。

1回目

本葉2～3葉期
子葉が埋まる程度

2回目

本葉5～6葉期
初生葉が埋まる程度



花が咲くまでに行います。

❗ 堆肥等の使用について

周辺住宅地への配慮をお願いします。適切な量の完熟した堆肥を使用し、散布後は放置せず速やかにすき込むなど、悪臭・害虫への対策をお願いします。

❗ 農作業時の熱中症に注意

喉が渇く前に水分補給を行う、こまめに涼しい場所で休憩を取る等、熱中症に気をつけましょう。